

# 今年を駆けるメンバー達へ——

外に出ること、

それは本当の内を知ること

## 泉JCOB列伝

### 第5回 菅原 裕典 先輩

インタビュー：広報委員会 委員長 鎌田 正孝  
委員 高橋 博



#### LOMでの活動で得た社会の基本

まず僕は25歳でJCIという世界に入って、40歳まで青年会議所に在籍させていただいた。この15年間というのは、25歳で起業した自分には出だしの会社を経営していくうえでも参考になりました。最初に感じたのはこの社会は人によって支えられているということ。自分でいくら優れたアイデアを生み出してそれを実行しても、応援してくれる人、手伝ってくれる人、そして反応してくれる人がいないと成り立たない。ビジネスだって一緒ですよ。仕事をするパートナーの人たちやその商品を買ってくれるお客様がいないと成り立たないよね。それはJCIでいえばメンバーの人たち、そして市民の方々と置き換わる。市民の皆さんも事業の出来が良ければ、「また来年も期待してるからね。また次何かあるとき声かけてね。」って言うてる。そんな経験はないかな？ 商売でもいい商品売れば、「美味しかったよ。」「使い勝手良かったよ。」とか「また買いに来るからね。」となるのと一緒だね。どこか世の中の縮図のように感じた。そして僕は在籍中に理事長をする機会を得た。50、100人単位の組織の長という立場を経験した。そうすると何となく自信がつくんだよね。それはJCIの世界の事だけなのに。なんていうかな、失敗の見方が変わったと思う。人生って大概のことが失敗から始まる。中には端から成功というものもあるけどさ。でも少しくじったり、反省するような点があった方が、次の展開は力強いものになると思うんだ。常に成功と失敗だけで物事を考えるのではなく、自分で選んだ道の通過点に起こった1つの課題と捉えて、その先を良い方へ進む為にどうクリアしていくかを考える。それを繰り返していくと自分の中でなにか新しい感覚が生まれてくると僕は思うよ。全ては通過点でしかないからね。その時だけでクヨクヨしたり、その結果だけでどうのこうのって終わってしまうのはもったいない。次があるんだよ。

#### JCIに散らばる組織運営の種

JCIは単年制だからとよく聞くとします。それはね、会社でいう理念みたいな根本的な部分は変わらないけど、1年間の組織運営という見方をすると、その年の理事長の意向が強く反映されるところですね。理事長になる方は突如として選ばれるのではなく、副理事長や専務理事を経験したとか、あるいはブロックや地区、日本青年会議所に出向して視野を広げた方が選ばれる。理事長に選ばれた人はまず自分のやりたい事を一緒にやってくれる人達を組織として作っていくことと思います。まずは副理事長や女房役の専務だったり、次に各委員長だったり。そこには今時点での適材適所というのがあるって、この人は何年間も在籍しているからメンバー全体の事も見えるだろう。とか、次の世代を担ってほしい彼には、この役割を経験してほしいなどと考えながら人選を進めていくと思います。メンバーの中には会社経営している、もしくはこれから経営される方も多いと思いますが、JCIの組織運営を通してこういうことはものすごく勉強になるはずですよ。また運営には皆様の会費やご寄付、行政のお金を使わせていただいていますので、無駄にすることは出来ないし、収益事業でもない。そこにも予算内で物事をどう収めるとか、その中でどれだけ効果を上げられるかということをお学ばしができる。事業にしても自分の頭や委員会の中で作った土台を理事会とか正副とかに上程をしながら、違う角度から色々な意見をいただく。そうしてもう一度見直して、より精度の高いものにしてから実践をしていく。何か物事をする時にはよく「段取り八分」と言いますよね。JCIの事業で言えば、準備物を揃えたり、ステージ作ったり、テント張ったり。皆さんも目に見える外の部分の準備をたくさんしていると思います。でも事業をうまく運営する為には、目に見えない内の部分、例えば参加者に保険をかけたかとか、誰がどのタイミングに出でどのように動くかとか、大事な役割を持つメン

#### 菅原 裕典 (すがわら ひろのり)

昭和35年5月7日生

株式会社清月記 代表取締役

昭和60年ご入会。平成12年には第21代理事長を務められた。出向歴も多岐に渡り、宮城ブロック協議会会長、東北地区協議会、特に日本青年会議所においては議長、会頭特別補佐の役職をご経験された。

近年もロータリークラブにてガバナーを務められるなど、各所にて精力的な活動を続けられバイタリティ溢れる先輩。

バーが急遽欠席となったらどうするか、といった内の「段取り八分」がすごく大切なことに気づくと思います。事業の準備となるとついつい外の「段取り八分」に力が入りすぎて、内の部分の「段取り八分」が疎かになってしまい、運営がうまくいかない事を経験したことがあるんじゃないかな(笑)それは会社経営においても、または任せられた〇〇部単位の運営においても同じことなんだよね。JCIはそういう意味でも毎回の事業が学べる機会ではないかと思えますね。

#### 会員拡大活動の中にある大事な部分

では次は会員拡大について。JCIのメンバーが該当する25歳から40歳の頃って仕事にも慣れてきて自分の将来の事も考えている頃。そこに突然、青年会議所に入らないかと言うわけですよ。相手は最初「中途半端では皆に迷惑掛けるし。」って思うはず。でもそこに身を置いてこそ、別の物事に取り組む為の時間の使い方や物事の組み立ての仕方ってものすごく上手になると思う。そこを上手に伝えていくことが大切。誰だって最初に不安はあるものだから。逆に世の中は全て初体験から始まるという認識のある人がいる。人生って繰り返し新しい体験にトライしていくことが大切とかロマンだよなって感じている人。そういう人は誘いやすい。言葉は不適切かもしれないけれど、そういう人にはいい意味での騙しを

使う(笑)参加させるとか、一緒に行く方向へ仕向けていくように。あとね、皆にはメンバーが多いということを「財産」だと感じてほしい。僕は今、少子化時代になって生徒数が減る話を聞くと可哀想になるよ。だって生徒はもっと競争力がある場で勉強した方がいいじゃない。30人しかいない所で1番だった人が、60人いる所にいったら5番目だったり、90人いる所にいったら30番目だったとかね。そこには30人の場にはない刺激があるでしょ。他にも社会に出れば、皆自分の考えは正しいと思って物事組み立てるんだけど、隣には性格も組み立て方も違うのに、自分以上の成果を上げている人がいたりする。そこにも刺激を受けるよね。そういった環境があることは「財産」だと思わない?僕もJCを通じて全く性格の違う人たちと付き合った。先の考えのとおり、そういう仲間が70人いれば、70通りの異なった考え方の人がいるわけだから。そこには似たような考えで自分を肯定できたり、もう全く正反対の価値観をぶつけられたり、と色々なことを感じる瞬間があった。でも正反対の価値観の人と別の機会で飲んだ時に、色々聞いてみるとやっぱり似通った部分も彼は持っていると感じたりするんだよね。そこまで突き詰められると、だから彼はJCにいるんだと納得できた。多くの人に会い、多くの人を知る。それも僕がJCが面白いと感じる一面なんだ。だから一人でも多くの人に入っていたいて、この経験をしてほしい。

## 出向しても変わらないこと

県内には11LOMがあって、その中で泉JCと同じエリアに仙台JCがあった。僕は同級生や先輩、後輩も仙台JCにいたし、当時「仙台JCに入ったか?」とよく言われた。けれども、会社の現状や自分が取り組める時間等を色々考えた結果、自分には泉JCの方が相応しいLOMだと思った。でもそれは正しい選択だった。泉JCに入ったからこそ、理事長やブロック長を経験できて、日本青年会議所にも出向出来たと考えているよ。でもそこにはバックアップとして仙台JCの力もお借りした。当時、日本青年会議所で委員長以上をするにはキャピタルLOM出身でないといけない面があった。そういう時代に「菅原君は仙台JCなのか泉JCなのかかわからないよね。」と言われるぐらい仙台JCの多くの先輩方に可愛がってもらえた。でもそれはJCのバッジを付けているからには、みんな平等だったからこそできたこと。それはブロックで塩釜に行こうが、

気仙沼や石巻に行ったら一緒。東北地区協議会に行ったら。もちろん日本青年会議所に行ってもそこには対等なJCメンバー達が待っていた。ただ、どこに行っても僕の中には大事にしていたものがあつた。それは自分は泉JCのメンバーであるという誇り。だから、その大事な誇りを守り抜くために、こういう場面を共にしてくれた、支えてくれた仲間とのつながりは僕にとって大きな財産であつて、とてもお金には換えられないものなんだよ。

## 踏み出す姿は息子にも

自分にとって25歳から40歳までJCで過ごしたことはベストだったね。JCを通じて自分なりの組織論、信頼、人間関係や人脈を含めて身につけられたものが相当あつたから。だから今、息子(仙台JC:菅原啓太君)にはほとんどやれって言ってる。27歳で入ったけれども、7~8歳まで生きるうちの13年間なんてたかが知れた時間だろって。私とは同時期の環境、やってる事も違う訳だから何も言うことはないけれども、やれる範囲のことは中途半端にして欲しくないと思うよ。本気で取り組んだことなら必ず自分の為になる。あとはそれをどう会社、プライベート、家族に反映していくか。現役当時、僕はそこを考へてASPAとか世界会議に行くときは女房、子供を連れて行った。JCはこういう世界でどんなことをしているかを感じてもらう為に。特に子供にはいずれ親父みたいな事をやりたいなって思ってもらいたかつたから。連れて行けば、子供ながらに俺も大人になったら、リーダーしてみたいとか、リーダーをするためにはどうしたらいいんだという考えを持ってくれると思った。そこには学校の勉強では得られない物がいっぱい落ちているわけだから。だから学校休ませて世界大会に連れて行ったよ。先生から教えられる事だけじゃなく、社会を見て必要なものを自分で捕まえてくる事も大切。そう考へていた。そして自分なりの人間関係を創ってほしい。人脈は引き継げないですから。私の人脈はあくまで私の人脈しかない。私の名前を言えば、「おお、息子か!」ってなるかもしれない。でも俺とその人の関係まで息子は継げるわけではないからね。

## 今年を駆ける君たちへ

JCでは相手の多くが会社の経営者だったり、経営者に準ずる人だから、ただただ命令形では

通じない。一部、体育会系の風潮があるけれど(笑)でもそれでは良き指導者、良きリーダーにはなれないよね。オーケストラに例えれば、木管、金管、打楽器色々な楽器を持った人がメンバー。リーダーはどういう演奏をして聞いている聴衆に感動を与えるかということを考へる指揮者なんだよね。実際はさらに奏者でもない舞台設営、照明担当の人もいれば、チラシを作つて広報を一生懸命にやった人達もいますね。1つの事業っていうのは色々な手が入つて出来上がるもの。もちろん成功すれば、みんなそれぞれ持ち場での達成感はあるんだけど、一番の達成感はやっぱ全体を指揮する人にしか味わえない。だから入会したからにはぜひ理事長、3役を目指して欲しい。理事長を経験した人は、ブロック長とかね。次へ次へと。そして若い人こそ早めに理事長、ブロック長…と多くの経験を積んでほしい。常に次のステージを目指すことはいい経験。今年、渡部洋平が地区担やって、本人も成長しただろうし、LOMとしてもそこに関わつた人達はみんな成長した事でしょう。自分のLOMにそういう人がいなければ、体験出来ない部分もたくさんあつたんだよ。同じ会費でその経験ができた1年だつたんだよ。これまでの話がどれだけ参考になつたかわからないけれども、僕にとってJCは宝。だから、強引には言わないけれども、身近にいる人には是非入つた方がいいよと伝えていきたい。そして現役の皆さんにはしっかりとしたLOMの運営を続けてほしい。最後に今年の君たちの活動を見ていて思うことは、やっぱり洋平が地区担になって皆が学んだ事が一番大きいと思うよ。彼にもう1、2年あれば日本の3役や、正副とかも出来たのかもしれない。でもその彼も今年、卒業を迎えることになる。次の世代に託す形だね。そこもJCならではの。40歳までしかできないから。そして会員拡大活動。地区担として洋平も鼻高々だつたと思うよ。東北の長として日本の理事として会員拡大を推進していく立場で、自身のLOMが日本で唯一5年以上33%会員拡大を続けているということは、「自分たちも一生懸命に会員拡大活動をしていますのでみんなも頑張ってください。」という言葉、これ以上ない説得力を持って言える状況を作つてくれたのは素晴らしい事だよ。僕はやっぱり日本青年会議所に行つて楽しかつたよ。現在までも続く、かけがえない繋がりを日本中に築くことができたんだから。君たちもぜひ大きな視点を持って頑張つていってください。(終)

(広報委員会) どうもありがとうございました。